

第1号 稲作管理特報

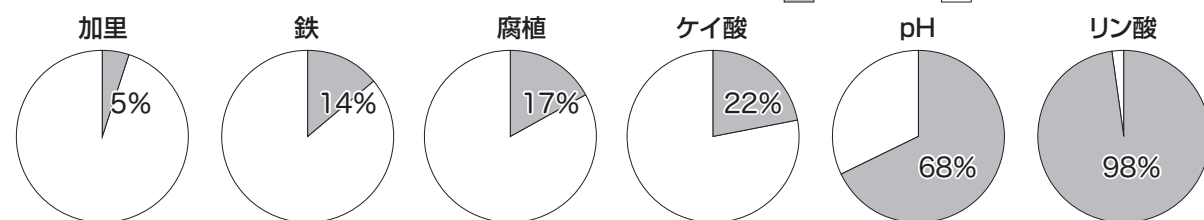
令和7年3月3日
朝日町
黒東地域農業技術者協議会

「土づくり」は高温等の気象変動に打ち勝つ米づくりの土台です。品質の高い「みな穂米」生産のために、継続して土壌改良資材の施用を実施しましょう！

1 土づくり

JAみな穂管内の多くのほ場は、加里、鉄、腐植、ケイ酸が目標値に比べ低く、不足している状況です。また、pHも目標値に未達の場合が多く、改善が必要です。「土づくり」は短期間ではできないので、継続することが大切です。

《JAみな穂管内の圃場の土壌分析結果》 令和5年度実施(59地点) ■ 目標達成 □ 未達成



ポイント1 ケイ酸質資材の継続的な施用

標準施用量（①、②、③より選択）

①	「珪酸石灰」160～200kg/10aと「苦土重焼燐」20kg/10a ※
②	「シリカパンチF」120kg/10a施用
③	「アサヒニューテツ」160kg/10a と「苦土重焼燐」20kg/10a ※

※ 洪積地帯（山手）は「苦土重焼燐」40kg/10a施用

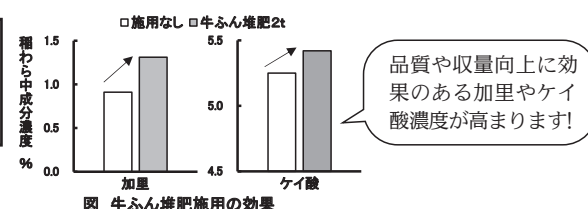
- ケイ酸分が不足すると
 - ① 根腐れが起きやすくなる ⇒ 活力低下、秋落ち
 - ② 高温時の光合成量減少 ⇒ 収量、品質の低下
 - ③ 軟弱な稲体 ⇒ 倒伏、割粃、病害虫の発生
- 土壌改良資材の施用を中止すると土壌中のケイ酸含量は急激に低下します。
継続して施用することが大切です。

ポイント2 有機物の施用

- 堆肥や発酵けいふん等の有機物は、土壌の透水性・保水性・通気性の改善や養分保持力を増進させる効果があるので確実に施用しましょう。
- 藁の腐熟を早めるために、積雪がない場合は早めに耕起作業を行いましょう。

主な有機質資材

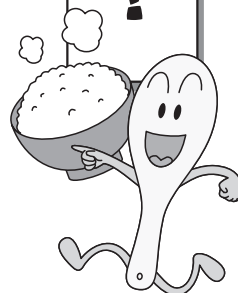
- 牛ふん堆肥（1 t/10a）
- グリーンウェイブ2（60kg/10a）
- 発酵けいふん（75kg/10a）



ポイント3 深耕の実施

- 「現状+3cm」の深耕に努め、作土15cm以上を確保しましょう。
- 深耕により根の伸長が促進され、根域が拡大し、米の品質向上につながります。
- 作業速度を落とすとともに、ロータリの回転も低速（PTO1速）にして、丁寧に作業を行いましょう。

みな穂の米づくりは、まず「土づくり」から始めよう！



2 農作業安全

近年、農業機械による農作業事故が増加しています。農作業機械による事故を未然に防止するために、以下の項目を確認しましょう。

●農作業共通

分類	No.	項目	内容	✓
作業前	①	正しい服装	衣類が機械に巻き込まれないよう、作業に適した服装	
	②	所在連絡	作業内容や作業場所を家族などに伝えている	
	③	携帯電話	緊急時に連絡が取れるよう、携帯電話を持っている	
	④	体力調整	準備運動を行っている	
	⑤	焦り防止	作業計画を立て、余裕をもって無理なく作業している	
作業中	⑥	作業者確認	子供、妊婦、不慣れな人には危険を伴う作業はさせない	
	⑦	周囲確認	周りに危険が及ばないよう、周囲を確認しながら作業	
	⑧	複数人作業	機械作業、高所作業などの危険を伴う作業は複数人で	
	⑨	機械安全確認	器具の安全装置や防護カバーはきちんと装着して作業	
	⑩	エンジン停止	機械から離れるとき、機械のつまりを取り除くときはエンジンを切っている	
	⑪	適切な休憩	疲労が蓄積しないよう定期的に休憩している	

●トラクタ

No.	内容	✓
①	安全フレームは作業時の状態にセットしてください	
②	ヘルメット、シートベルトを着用して下さい	
③	道路走行時は、左右のブレーキペダルを連結しましょう	
④	柔らかい畦や、幅が狭い道では慎重に走行しましょう	



●刈払機

No.	内容	✓
①	帽子・メガネ・手袋などの保護具を装着しましょう	
②	滑りにくい靴を履きましょう	
③	石や空き缶などをあらかじめ取り除きましょう	
④	周囲に人がいないことを確認しましょう（5m以内は危険）	



●田植機

No.	内容	✓
①	機械には運転者以外は乗せない	
②	苗の補給は田植機を停止させ、足元に十分注意する	
③	荷台から降ろす際は、荷台高さの4倍以上の歩み板を使う	



★JAみな穂営農情報メールを配信しています。右のQRコードから手続きをお願いします。



雪解け後は、集落の用水などの危険箇所の状況を確認し、侵入防止対策をとりましょう！

JAみな穂 営農センター ☎ 74-2440 JAみな穂 あさひ支店経済課 ☎ 83-3212
新川農林振興センター農業普及課 ☎ 52-0094